



福間 義朝	
銀河宇宙と一輪の花、そして私	1
一ノ瀬 かおる	
報恩講によせて	11
本川 英暁	
届け お念仏 塀のなかへ	21
深川 宣暢	
「報恩講」とは	31

本文中、『浄土真宗聖典(註釈版)第二版』は『註釈版聖典』と略記しております。

表紙絵・挿絵／土田菜摘

銀河宇宙と一輪の花、そして私

福間 義朝

仏法では「縁起」という教えがあります。すべての事象は単独ではなく、お互いに支え合って存在しているということです。例えば、ここに一輪の花が咲いているとすると、その花の生命を支えているのは大地です。でもその大地も支えられています。地球という星にです。その地球も太陽に支えられています。太陽の周りを正確に回り続けています。そしてその太陽も支えられています。銀河系という巨大な天体にです。銀河系は太陽のような星が二千億以上もある星の集団ですが、その端っこ



命体が現れるそうです。
気圧も気温も、あたかも意志があつて地上の生命にぴったり合うように、この地球は調整し続けているといつのです。
このように私たちの生命は不思議です。ここからここまではたらいで生きているというラインを引くことはできません。無限のはたらきの中に生かされているこの生命なのです。

にあるのが太陽系で、二億年の周期で銀河系の周りを回っているそうです。その銀河系宇宙とは天の川あまがわです。あの夜空に輝く満天の星、でもあの無数の星一つ欠けても太陽の軌道が狂うそうです。太陽がおかしくなると地球も維持できません。すると地上の花の生命ありません。といふことは一輪の花も、夜空の星一つ欠けても成り立たないことになり、それは私たちの生命も、夜空の無数の星一つ欠けても成り立たないといふことです。

また、イギリスのジエームズ・ラブロック（一九一九〜）という学者は「地球ガイア説」を提唱しました。地球はそのものが一つの生命と考えられるといつのです。例えば、空気中の酸素が一パーセント増えたら山火事が多発するそうです。また一パーセント減つても、バタバタ倒れる生

もう一つ科学の話ですが、今から四十年前に、アメリカのカール・セーガン（一九三四～一九九六）という学者が「コスモス」というテレビ番組で「宇宙カレンダー」という表現を使いました。この番組は、この宇宙がいつできて、銀河や太陽、地球がいつ頃現れ、地上の生命がいつ頃生まれたのかという番組で、世界各国で一億四千万の人が見たと言われます。

その当時は、ビッグバンで宇宙が生成されたのが百五十億年前、銀河が百億年、太陽がほぼ五十億、地球が四十五億年、生命誕生が三十五億とかわられてましたが、それを聞いてもピンときません。そこでカール・セーガンは宇宙の生成の歴史を一年のカレンダーに置きかえたのです。

一月一日にこの宇宙ができたとしたら、銀河系宇宙ができたのが、五



月一日になり、太陽ができたのが九月九日、地球ができたのが九月十四日、そしてその地球に生命が誕生したのが、十月九日になるそうです。そして古代生命の三葉虫さんぺつちゅうが全盛の時が十二月十八日、人類が現れたのは十二月三十一日になります。インターネットで調べたら、私たち人間の現在の文明社会の初期に当たる二千五百年前は、この計算でいくと十二月三十一日